



檮こずえの梢けやきから

大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民の皆さんにお伝えします！






大槌高校のnoteでも行事などの様子を発信しています！

先生たちも学び続ける ～令和4年度大槌町教育全体研修会から～

1月23日(月)、町の小・中・高校の教員対象の研修会が、地域の人も参加して盛大に行われました。3年ぶりの参加型の研修会となった今回は、町内の各学園や大槌高校の生徒たちによる探究活動の合同発表会を初めて実施し、「大槌の教育」での学びのつながりを改めて確認する貴重な機会となりました。また、教員による全国大会派遣の報告や、島根大学教職大学院 中村准教授による講演があり、内容も濃く、学びの多い研修会となりました。町民の皆さんにも研修会の一部を紹介します。

児童生徒実践発表会

<p>大槌学園(8年生) 「進路を考える」</p>  <p>発表者</p> <p>4 進路と探求 【1】成果 「進路」は自分と他人それぞれの考えが、自分どう生きていけるかによって、違いが出てくるという事だ。 【2】感想 進路は自分で決めるのではなく、周りの人との話を聞いて、大槌の良さ、この町に何をしたいのか、自分の得意なことを考えて決める方がよいのではないか。 【3】今後の目標 自分の得意なことを活かして、自分らしく生きていきたい。</p>	<p>吉里吉里中学校(9年生) 「吉里吉里の海を守る」</p>  <p>発表者</p> <p>吉里吉里には沢山の魅力と可能性がある。その魅力に気づけた僕が地域の一員として支えたいです。</p>	<p>大槌高校(2年 遠藤さん) 「高校生コーディネーター」</p>  <p>発表者</p> <p>高校生コーディネーターになろう！</p> <p>地域活動に高校生が参加してほしい！</p> <p>マイプロに協力してくれる地域の方に出席してほしい！</p>
---	---	--

派遣事業報告

コロナ禍により2年間実施されなかった「小中一貫教育」と「コミュニティー・スクール」の全国大会に参加した先生の報告・発表が行われました。吉里吉里小の橋本教諭は、福岡県飯塚市で開催された「小中一貫教育全国サミット」、大槌学園の木村副校長は、大分県玖珠市の「全国コミュニティー・スクール研究大会」での先進地の取り組みを紹介しました。会場の先生も、他県や先進校の取り組みに大いに刺激を受けていました。



吉里吉里小学校 橋本教諭

大槌学園 木村副校長

「思考力を育む伴走」とは ～島根大学教職員大学 中村怜詞准教授～

3年ぶりに来町した中村先生の講演は、前回のオンライン講演以上に盛り上がるものとなりました。講義の合間に入るグループワークでは、先生同士が膝を突き合わせて、与えられた「問い」に懸命に考える姿が印象的でした。そこから、児童生徒が学びたくくなるような「問い」や「仕掛け」を教員が行うこと(伴走)が大切であり、子供も教員も思考を止めず、探究し続けることで求める姿に近づくのだと改めて確認することができました。



参加した先生の感想

問いかけの仕方、生徒の思考力への刺激も変わってくることを感じた。(中略) 生徒とともに教員も考えて成長していく必要性を考えさせられた。

3年生三陸みらい探究発表会 ～私が18年間で身に付けた大槌(ハンマー)～

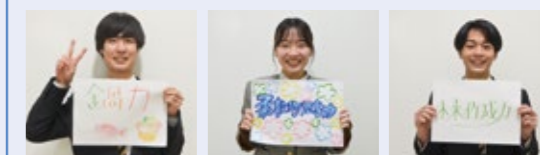
2/4(土)に、大槌高校を会場に3年生の「三陸みらい探究発表会」を実施しました。49名の生徒それぞれが、自分が今までで1番お世話になった人をゲストとして1人招待し、1対1でプレゼンテーションを行いました。今年度、初めて開催したこの発表会の様子をお伝えします。

発表会のテーマは「私が18年間で身に付けた“大槌(ハンマー)”」。“大槌(ハンマー)”とは、本校のコンセプト「大海を航る大槌を持とう」で使われている「経験を通して身に付けた力・強み」を意味します。生徒たちは、それぞれが18年間の経験を振り返り、自身が身に付けた力についてのプレゼンテーションを作成しました。どの生徒も、当日来てくださるゲストのことを想像しながら一生懸命作成を進めました。

迎えた発表会本番。マイプロジェクトでお世話になった地域の人、幼稚園・小学校・中学校でお世話になった先生、保護者など、約50人に発表を聞いてもらいました。生徒は、例えばキャベツの芯のように固く何事にも折れない精神力を表す「キャベツの芯力」、自分だけでは達成できないことも、他の人を頼って協力してもらうことで達成できる「他力本願力」など、1人ひとりが考えたオリジナルの大槌(ハンマー)について語りました。また、会の途中では生徒とゲストでお互いに手紙を交換し、中には生徒と関わった当時に回想し、成長した姿に思わず涙を流すゲストも。会の終わりに感想を共有し、生徒からは「この18年間、家族や地域、先生にたくさん支えられてきたことを実感しました」、ゲストからは「震災やコロナなど、様々な困難を経験してきた子どもたちがこうして前を向いている姿が嬉しかった」といった感想が挙がりました。会場全体が笑顔で溢れ、参加者がそれぞれの思い出や未来に思いを馳せる温かい場となりました。



大槌高校ホームページで公開中！



生徒それぞれの大槌(ハンマー)は、大槌高校のホームページで公開しています！ぜひご覧ください！(右側のQRコードからアクセスできます)



新たな魅力づくりに向けて～新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)～



大槌高校は今年度、文科省から「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」の全国20校の中の1校として指定を受けました。この事業を通して、これまで地域のみならずと一緒により上げてきた大槌高校の魅力を今後も更に発展させていけるよう、様々な構想や取り組みを行っています。広報おつちでも今後、こうした取り組みの様子を定期的にお伝えさせていただきます。今回は、今年度実施してきた生徒ワークショップや教職員研修で学んだ声を紹介しします。

新たな魅力づくりに向けた生徒・教職員の声

- 様々な分野の専門家から学ぶ機会を増やしてほしい(生徒)
- 分からない問題を復習できる授業をつくってほしい(生徒)
- コースに関係なく、もっと自由に科目を選択したい(生徒)
- 制服や学校生活のルールについて、深く考えたい(生徒)
- 大槌高校にしかない魅力的な活動を更に発信する(生徒)
- 自分の専門分野を通して魅力化に貢献していきたい(教員)
- 自分の授業を魅力的なものに進化させていきたい(教員)
- 生徒の進路実現に向けたサポートに力を入れたい(教員)
- 地域の方が親しみを持って関わられる学校にしたい(教員)
- 生徒の学びを支える充実した図書館をつくりたい(教員)